



竹芝桟橋から東海汽船っていうので。要するにどこへも行かないから、ずっと脳裏に焼き付いてる。橘丸っていうの。船の名前まで覚えてる。 どこにも行かないってどういうことですか？ あんまりあっちこっち行かない時代だったから。臨海行ったときには入ってくるのが珍しい名前だからもう忘れないんです。

大きな船です。竹芝桟橋から乗るときに。結構、ちゃんとした椅子じゃなくて人数が多いから床に新聞しかなんか敷いてごろ寝するから、揺れるたびにどろどろってちよっとずれるんです。それでちよっと気持ち悪くなっちゃう人があるんだけど、私は農家の生まれで体、鍛えてるから全然気持ち悪いってなんないんだけど。右大臣の子なんて酔っちゃう

希望者。行くのは。希望者。残ってる子たち何してるんですか。それは夏休みですから、毎日。夏休みなんだ。夏休みにあるんだ。私ももっと早く行きたかったんですけど、なかなか貧乏だったもんで行けなかったんで。小学校6年のときやっと思わせてもらったんだ。

校庭です。雨の日はできない。ちなみに、若林小学校にはプールがなかったんですけど、今代沢小学校っていう名称であるんですけど、その学校には25メートルと5メートル。横5メートル。小さなプールがあったんです。その学校のプールに夏休み、みんなで歩いて。学校から歩いて使わせてもらってま

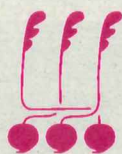
踏切がありましたでしょう。あれも臨海鉄道だと思うんです。浜松町からずっと。あの辺の桟橋。今、その一番上にゆりかもめがちょうど線路が通ってるんです。これか。これ、ばってんが。すごい。竹芝とかあの辺の桟橋を通ってるんで。これ。ばってんの印があれです。鉄道のあれでしょう。臨海鉄道です。

ドキュメンタリー映画っていうのができてくるっていうのが50年代になってからで。その初めとかも結構やっぱり子どもたちを映す映像をドキュメンタリーに撮るっていうのが結構先駆的な。ドキュメンタリーはこうあるべきだみたいな流れがあったから。もしかしたら撮った方は、そういう意識があって子ども

せたがやアカカブの会 vol.18 前半
日時：2018年12月5日（水）19:00～19:45
場所：生活工房ワークショップルームA
参加者：16名
世話人：4名

穴アーカイブ：an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。

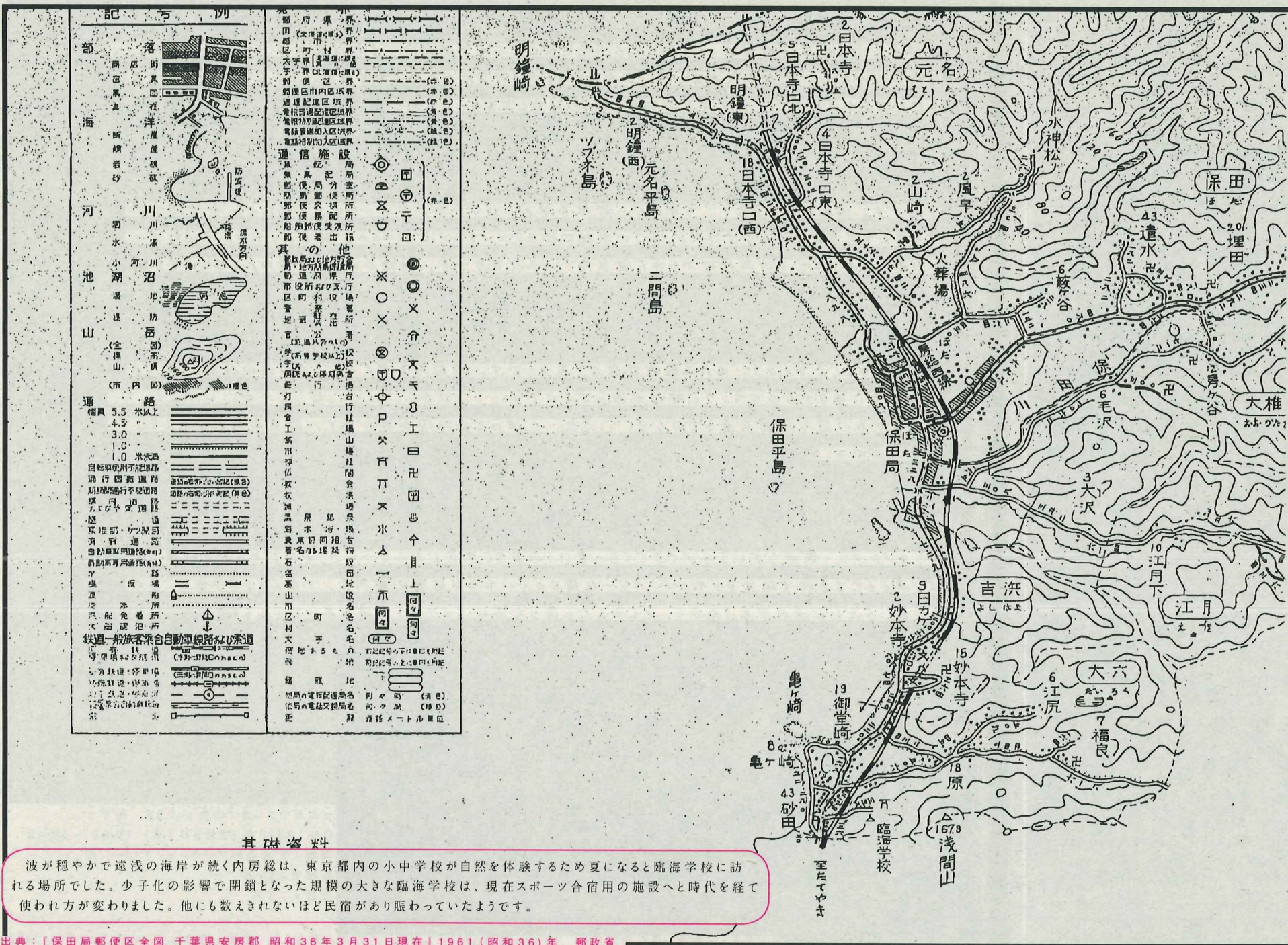


せたがやアカカブの会：The setagaya akakav circle

穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはくお問い合わせからご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。

写真は、成城学園中等部の生徒たちが、千葉県南房総での5泊6日の臨海学校にて約2000mの遠泳に取り組んでいる姿です。「とにかく気弱な都会っ子に頑張りを」が狙いだというこの遠泳は、泳げない子も参加しなくてはならないようですが、記事は「どの子の顔にも俺はやったぞと叫び出しそうな自信とうれしさがあふれていた」と結んでいます。

日本経済新聞 1960（昭和35）年7月29日（夕刊）5面



基礎資料

波が穏やかで遠浅の海岸が続く内房総は、東京都内の小中学校が自然を体験するため夏になると臨海学校に訪れる場所でした。少子化の影響で閉鎖となった規模の大きな臨海学校は、現在スポーツ合宿用の施設へと時代を経て使われ方が変わりました。他にも数えきれないほど民宿があり賑わっていたようです。

出典：「保田局郵便区全図 千葉県安房郡 昭和36年3月31日現在」1961（昭和36）年 郵政省

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2018 no.5
発行日：2019年2月20日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、プルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo [NPO 法人記録と表現とメディアのための組織]
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

世田谷文化情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。